

要求実現に向け進取果敢な取組を

～林野労組九州地本第16回定期大会～

林野労組九州

発行所
熊本市西区京町本丁2の7
全国林野関連労働組合九州地方本部
九州地方本部
(電) 096-354-1150

発行者 山口隆志
発行日 10日
定価 1部20円
組合員の購読料は
組合費の中に含む

緑を育て、守る、 林野労組

当面の活動

8月1日 第16回定期全国大会

(書面)

2日 共済通常総代会・全
労済森林本部代表
者会議(書面)

3日 森林労連第31回定期
全国大会(書面)

5日 地本執行委員会

7日 林活議連九州連絡会
議役員会(書面)

19日 地本執行委員会

質疑・討論では、要員問題、
現場管理機能問題、業務運営、
コロナ禍のテレワーク対策、樹
木採取権、移転問題、森林事
務所耐震問題、組織態勢確立な
ど多岐に亘り意見が出され(詳

匠の腕

『高塚愛宕地蔵尊』

(撮影者：穴井隆文・元大分西部分会)



「匠の一言」
天瀬復興祈願の風鈴祭です。

九州地本は、7月17、18日、熊本県玉名市「司ロイヤルホテル」において、全国林野関連労働組合九州地方本部第16回定期大会を開催し、各分會代議員など約50名が参加しました。
今大会は、新型コロナウイルス感染拡大を防止するために、参加規模を縮小して行われ、マスク着用、消毒、ソーシャルディスタンスなど対策を行い開催しました。

大会は、議長団に橋本(長崎)分會・北部ブロック、木倉(局分會・熊本ブロック)の両代議員を選出し、議事が進められました。

冒頭、甲斐地本執行委員長は「熊本南部や九州北部で起こった豪雨は、1週間以上続く中で甚大な被害をもたらしている。熊本南部分會の組合員や若北町では組合員の実家が被災をされて、今なお災害復旧が続いている。被災された皆さんにお見舞いを申し上げる」「長引くコロナ禍の影響は、経済だけでなく労働環境や働き方にも変革を求められる中で労働者の雇用や賃金に影響を与えかねない状況であり、今後も安全確保を最優先



議長団の橋本(長崎)(左)と木倉(局)の両代議員



地本委員長あいさつ 労働組合の果たすべき役割を自覚

地本執行委員長 甲斐和幸

「国会を巡る状況」

安倍政権は、戦後最大の困難といわれるコロナ禍の中、初動の感染拡大防止策の不備や補正予算案の組み替えにみられるように支援策の遅れが国民に不安や混乱をもたらしたといえます。

このように、多くの国民が苦境に立たされている中、国民に寄り添わず、国家が国民の生命・財産を守る責務を果たすべき時に、政府・与党につながる疑惑に幕引きをはかるかのごとく国会を閉会させたことは、安倍一強政治の驕

「国会を巡る状況」

りと思慮だと思えます。安倍一強体制のおごりと暴走を改めさせ民主政治の健全性を取り戻す、今が最大のチャンスであり、私達労働者が今一度奮起し、勤労国民の切なる声を政治の場に取り戻す運動をしっかりと取り組む必要があります。

そのためには、組合員の皆さんには、是非とも林野労組の方針でもある支持政党の立憲民主党、国民民主党、社民党、そして林業に造詣の深い議員の確保を柱に、予想される解散総選挙など推薦候補者

「一般林政課題と国有林野事業」

国有林への新たな民間活力導入に係る「樹木採取権制度」については、この4月に国有林野管理経営法の施行、運用が開始されました。

九州局においては、樹木採取区の指定に向けてプロジェクトチームを設置し、関係各課、該当署を中心に取り組みを行っています。

「組織運営に係わる課題」

組織運営については、組合員の意識が多様化している中で、組織をまとめる分會執行部には大変な苦勞があることについて地本としても認識をしております。

地本・分會執行部と組合員が同じ認識に立ち、組合員同士の間で、分會段階においても同じ認識に立った組織強化に向けた取組を、最後にお願ひしたいと思います。

「組織運営に係わる課題」

新規採用や再任用を含めた要員配置のあり方、新たな事務委託の検討など、当面する具体的な対策を求めるとともに国有林の使命役割と管理経営に影響を生じさせないための将来を見据えた運動を進めていきたいと思ひます。

したがって、この一年間の取組については、予算確保と

「組織運営に係わる課題」

いますし、組織で取組を進め、組織で問題を解決していくことが大切だと思ひます。そういった意味では、今後においてもオルグ、情報伝達を強化し、情報の共有化を図るとともにブロック別学習会を開催しながら若手育成の取組を強化するなど、きめ細かな組織運営に努めていきたいと思ひます。

そして、九州地本としての全体的な取組にあたっては、労働組合の果たすべき役割を自覚しながら強靱な組織を作り上げられるよう努力したいと思ひますので、分會段階においても同じ認識に立った組織強化に向けた取組を、最後にお願ひしたいと思います。

ることにならないよう林業の技術者集団として責任を持つて慎重に対策を講じつつ、今後の具体的な運用、そして労働条件に係る課題について整理を図っていききたいと思ひます。

細は別途掲載、各ブロック代表による総括討論と地本決意表明を行い、提案された議案は、満場一致で可決・承認されました。

その後、地本分會機関紙コン

「806」「809」「815」。この数字が何を意味するのかと自問自答した▼そのページを閲覧すると、順番に「沖繩慰霊の日」「広島平和記念日」「長崎原爆の日」「終戦記念日」。私たち日本人が忘れてはならない日である。1945年8月6日、米国軍は広島市に人類史上初の原子爆弾「リトルボーイ」を投下。続く8月9日には長崎市に投下。1発の「ピカドン」で一瞬に廃墟と化し、多くの生命を奪い被爆者も出ている▼歴史的な出来事が相次いだ「昭和」から、元号は「平成」「令和」へと変わった。自分の記憶は時が経つとともに薄れつつある。歴史の経過を受け止め、来年、再来年になろうとも、未来永劫「世界平和と生命の尊厳」を次の世代へと語り継ぐことが私たちがの使命だろ。

インターネット検索をして、4種類の数字が見えた。「623」。

7/17~7/18

地本大会の質疑・討論

組織・要員関連

岩下(宮崎北部分会)

3G相当の業務を地域技術官や一般職員が担うことが当たり前の状況になっているので、さらなる議論や取組強化を求めらる。

井上(宮崎南部分会)

首席森林事務所の業務を2級地域技術官が担っている。要員の適正配置を求める。

和田(鹿児島分会)

森林・林業技術師制度の早期実現を求める。

戸島(北薩分会)

森林・林業技術師の創設や、期間業務職員の活用等、今後の運動前進に向けた取組を求める。

庄司(大分西部分会)

空席ポストの解消と要員の適正配置を求める。

羽野(宮崎分会)

各県の県庁所在地にしかない重要なポストが空席となつているため要員の適正配置を求める。

佐藤(局分会)

ポストの業務量を考慮し、要員の適正配置を求める。

釜(技術センター分会)

空席ポストの解消を求める。

水本(都城分会)

新規採用者数の拡大を求める。管理者が2名であることから、3名であればという職場の状況が多々ある。組織上のことから難しいことは承知しているが、こうした実態があることについて地本も把握しておいてほしい。

岩下(宮崎北部分会)

大規模自然災害により山林等に甚大な被害が出ている。民直の治山事業所が廃止になったところもあるが、状況によっては復活させることもあるのか。

【地本見解】

上位級の業務を一般職員等が担い負担増加となっていることに対しては、昇級スピードの加速等を求め引き続き取組を進める。

現場管理機能について、森林・林業技術師制度の実現に向けて引き続き取り組む。一方で一昨年からの期間業務職員の制度が導入されているが、非常勤職員予算の不足が大きな足枷になっている。引き続き、必要予算の確保等に向け取り組む。

要員要求については、まずは新規採用者数の確保が大前提であることから本部交渉に連動するよう交渉を強化していく。空席ポストの解消や適正配置については、分会意見を踏まえ要員問題と絡めながら当局に要求していく。また、当面対策として再任用職員、非常勤職員予算の確保等を求めるとともに業務の見直しについても引き続き求めていく。

支署の状況は認識しており、意見反映等行っていきたい。治山事業所の復活等については確認させてほしい。

めて取組を進める。

井上(宮崎南部分会)

森林事務所の耐震補強について地本の取組強化を求める。

【地本見解】

分会で取り組まれている一部席ポストの解消や適正配置については、分会意見を踏まえ要員問題と絡めながら当局に要求していく。また、当面対策として再任用職員、非常勤職員予算の確保等を求めるとともに業務の見直しについても引き続き求めていく。

岩下(宮崎北部分会)

大規模自然災害により山林等に甚大な被害が出ている。民直の治山事業所の復活等については確認させてほしい。

【地本見解】

再任用職員について、今後の退職者増加により希望地にいけない人も出てくるのではないかなど、単身赴任手当はあるが住居手当はないことから、支給の対象となるよう取組を求める。

現場管理機能について、森林・林業技術師制度の実現に向けて引き続き取り組む。一方で一昨年からの期間業務職員の制度が導入されているが、非常勤職員予算の不足が大きな足枷になっている。引き続き、必要予算の確保等に向け取り組む。

要員要求については、まずは新規採用者数の確保が大前提であることから本部交渉に連動するよう交渉を強化していく。空席ポストの解消や適正配置については、分会意見を踏まえ要員問題と絡めながら当局に要求していく。また、当面対策として再任用職員、非常勤職員予算の確保等を求めるとともに業務の見直しについても引き続き求めていく。

支署の状況は認識しており、意見反映等行っていきたい。治山事業所の復活等については確認させてほしい。

【地本見解】

現場実態について

国産材の木材価格に対するコロナの影響は大きいと考えている。森林整備や立木販売などに對する対策を当局に求めていきたい。

事業体育成について

木材価格下落に対する対策は必要であるが、一方で生産調整は事業体にとって死活問題であることは理解している。重要なパートナーとして林業事業体に対する対策を当局に求めていきたい。

林業技術について

現場官庁である国有林にとって、架線系や路網系の林業技術の継承は重要である。引き続き取組を進めていく。

樹木採取権制度について

九州局としては、2021年度の樹木採取区指定に向けて準備が進められている。業務運営に係る課題や労働過重とならないよう対策を求めているが、引き続き交渉を継続していく。該当分会のみならず、全体の運動となるよう取組を進める。

釜(技術センター分会)

車両系の伐採が大多数。奥地化しており、見直す時期が来るのでは。現地に合った適正なものになるよう要望する。

廣田(大分分会)

現時点の九州の対象地は一つであるが国有林にとって大きな問題。認識を統一するなど全体の運動として取組をするべき。

井上(宮崎南部分会)

夏季休暇について、原則連続3日を1日単位としてほしい。

【地本見解】

業務に支障があれば1日単位で取得できることになっている。意見については受け止めたい。

廣田(大分分会)

大規模自然災害に係り、人事院規則や特別休暇等については弾力的な運用ができるよう取組を求める。

【地本見解】

現状では制度上難しい状況もあるが、個別対応も含めて今後取組を進める。

業務運営関連

戸島(北薩分会)

シカネットのメンテナンスが職員が減っていく中で今後の課題である。現在、工夫してやっているが、谷を跨ぐ場合などシカネットの一部を金属製のメッシュネットにすることを発注段階でできないか。

庄司(大分西部分会)

車両の更新について軽トラが古い。現場作業に必要なため、更新してほしい。

井上(宮崎南部分会)

調査委託について 収権調査委託における現場従事者が高齢化している。何らかの対策が必要なのではないか。

平松(福岡分会)

テレワークについて

テレワーク可能なパソコンが今後配置されていくこととなるが、適正配置を求める。

中川(局分会)

テレワークに向けた条件整備について パソコン関係の条件整備ももちろんだが、勤務の内容も柔軟に対応したかどうか。

戸島(北薩分会)

移転料について 現在の事務処理では、担当者の負担が大きくなっている。事務処理内容の簡素化を求める。

岩下(局分会)

移転料のマイカー運搬について 離島へ異動する際にマイカー運搬料が出ないことになっている。離島の場合、生活必需品であるので移転料として支出するべき。

井上(宮崎南部分会)

移転料の見積もりについて 3者からの見積もりが必要であるが、なかなか取れない。改善すべき。

岩下(局分会)

制服・作業衣について 改善についてスピードが遅い。早期の取組を。また、素材や形状など、北国・標準・南国の3パターンぐらいあっても良いのではないかな。

【地本見解】

現場管理機能について

金属製のメッシュネットを発注段階で入れられないか、当局と対応する。

車両の更新について

必要なものは更新させるよう取り組む。分会段階でも当局に對し求めてほしい。

収権調査委託について

要員が減る中で委託については重要なもの。今後も委託は継続させていきたいが、高齢化に対する課題は引き続き取り組む。テレワークに向けた条件整備について

中川(局分会)

未加入者対策として組織拡大強化月間を新たに設け、取組の強化を図る必要があるのではないか。

【地本見解】

組織態勢の確立について新規採用者の全員加入については各分会で取り組んでいただいた成果であり、感謝している。未加入者対策について、各分会においては引き続き、粘り強く取組を進めていただきたい。組織拡大強化月間について新たに設定することについては時期も含め検討したい。

小薄(熊本南部分会)

7月4日からの豪雨により各地で自然災害が発生し組合員が被災を受けている。共済活動の推進に力を入れていただきたい。

【地本見解】

森林労連共済推進については林野労組の自主福祉活動として

組織態勢確立

吉村(屋久島分会)

新規採用者は全員加入であったが、未加入者は増加傾向にある。抜本的な取組が必要ではないか。

中川(局分会)

未加入者対策として組織拡大強化月間を新たに設け、取組の強化を図る必要があるのではないか。

【地本見解】

組織態勢の確立について新規採用者の全員加入については各分会で取り組んでいただいた成果であり、感謝している。未加入者対策について、各分会においては引き続き、粘り強く取組を進めていただきたい。組織拡大強化月間について新たに設定することについては時期も含め検討したい。

小薄(熊本南部分会)

7月4日からの豪雨により各地で自然災害が発生し組合員が被災を受けている。共済活動の推進に力を入れていただきたい。

【地本見解】

森林労連共済推進については林野労組の自主福祉活動として

労働者福祉活動

小薄(熊本南部分会)

7月4日からの豪雨により各地で自然災害が発生し組合員が被災を受けている。共済活動の推進に力を入れていただきたい。

【地本見解】

森林労連共済推進については林野労組の自主福祉活動として

岩下(宮崎北部分会)

森林労連共済推進については林野労組の自主福祉活動として



小薄 (熊本南部)



石田 (佐賀)



中川 (局)



和田 (鹿児島)



戸島 (北薩)



庄司 (大分西部)



羽野 (宮崎)



佐藤 (局)



岩下 (宮崎北部)

